

甲斐市立敷島中学校 自己評価書（令和6年度）

令和7年1月13日(月) 作成

校長 山本成利

記述者 教頭 河西 修

学校教育目標

「一人一人の個性を伸ばし、自ら学ぶ生徒の育成を図る」

○自ら学ぶ生徒（知）

○心豊かな生徒（情）

○よく働く生徒（意）

○体を鍛える生徒（体）

学校経営目標 【生徒一人一人を大切に作る学校づくり】

(1) 生徒が主体となる授業づくりの実現と確かな学力の育成

(2) 豊かな心と望ましい人間関係の育成

(3) 愛情と信頼、生徒理解に基づく生徒指導

(4) 安全で安心の学校づくり

(5) 開かれ、信頼され、地域に誇れる学校づくり

1 全体評価

〈自己評価より〉

・39の質問項目によるアンケート形式で、全教職員（40名）から回答を得た。

R6年度のデータでは、【学校教育目標・学校経営】【学校運営】【学習指導】【生徒指導】【地域との連携】【学校の特色】の項目にわたり、合計14項目で肯定評価が100%でした。（昨年度は2項目のみ）特に【生徒指導】については、6項目中5項目が100%となっている。具体的には、「民主的で規律ある集団づくり」「生徒理解のためのコミュニケーション」「規範意識の醸成」「いじめや不登校等の早期発見・早期対応」「率先垂範」の質問であった。この結果から、全教職員が心をあわせ、授業をはじめとする日常生活等で生徒と共に取り組んできた成果を実感できていることがわかる。【学習指導】についても「個に配慮した基礎基本の定着を図る授業」の実践や「協働的な学びを取り入れた授業」の実践についても肯定評価が100%となっており、今年度、県教委指定「新たな学びの姿に向けた授業改善推進事業」の推進校の指定を受け、公開研究会を開催、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの授業改善に取り組んできた。その研究の成果を感じることができる。

一方、甲斐市中学校5校の肯定評価と比べると、8項目で下回っている。【学校教育目標・学校経営】のなかの「PDCAサイクルを生かした教育活動」「教育活動計画に基づき実態に即した教育実践」、【学校運営】のなかの「教職員の連携・協働」、【学習指導】のなかの「学びの意欲を喚起する授業づくり」「授業におけるICTの効果的な活用」、【生徒指導】についての「キャリア教育を生徒の実態に応じて行っている」などは前年よりも評価が低くなっているため、来年度に向けて取り組み方法などを精査していきたい。【地域との連携】についての「地域や保護者の要望等の情報収集」、「たよりやホームページでの広報」については前年度よりは評価が上がっているが、まだ甲斐市の平均に届いていないので取り組みについて検討をしていきたいと考えている。今年度も教員が定数通り配置されず、一年間が過ぎようとしている。「職場の福利厚生や健康管理への配慮」の評価が低いところが一番気になっている。また、学校評価の結果をしっかりと精査し、来年度に活かし、学校教育

目標達成に取り組んでいきたいと考えている。

〈生徒アンケートより〉

今回のアンケートは、全校 500 名中 495 名から回答を得た。甲斐市中学校 5 校と比較すると、本校の肯定評価は 27 項目中 20 項目において上回っているという結果だった。R 5 と比較して上昇した項目は 9 項目だった。「学校は楽しいですか」「学校の授業は楽しいですか」「数学の授業の内容はわかりますか」については、肯定的評価が上昇していた。また、生徒と教師との関係についての質問では「先生はよく勉強を教えてくれるか」については、肯定的評価が 99% を超え、「先生はあなたのよいところを認めてくれているか」も 95% となっていた。また学校の特色でもある「挨拶」「フリートーク」などについても肯定的評価が昨年度より上昇している。

しかし、甲斐市全体と比較したときに、「いろいろなことを相談できる友達はいますか」「人前でしっかりと自分の意見を言うことができるか」などがやや低いことが気になる。全校で取り組んでいるフリートークをより推進させ、学級集団づくりなどにより一層力を入れていきたい。また「困ったときに相談できる先生がいるか」「将来の夢や希望を持っていますか」については、生徒とのより強い信頼関係づくりやキャリア教育の推進により一層力を入れていきたい。「今住んでいる地域の行事に参加していますか」はコロナ禍以降、停滞をしている。これについても地域と連携を図っていきたい。

〈保護者アンケートより〉

26 の質問項目によるアンケート形式で、491 名の保護者からの回答があった。甲斐市内中学校 5 校と比較すると、26 項目中 24 項目で肯定的評価が上回っていた。また、経年の比較でも R 5 を上回った項目は 21 項目中 13 項目であった。R 6 の結果、「お子さんにとって学校は楽しいところ」「たよりやHPから教育活動の様子を知ることができる」「学校は保護者・地域住民の声に耳を傾けている」「授業参観が有益」「学校は挨拶を奨励している」「お子さんは将来の夢や希望を持っている」「学校は学力向上に力を入れている」「学校はICT活用の授業に取り組んでいる」「学校からのたよりや連絡がさくら連絡網で届いている」などの項目でR 5 より高い評価が得られている。

R 5 を下回った項目は 21 項目中 8 項目であった。変動が比較的大きなものは以下のものである。「学校は、熱心に授業に取り組んでいる」「お子さんは、授業の内容がわかっている」「お子さんは、宿題（課題）を忘れずにしていますか」など学習に関する質問、「お子さんは、困ったことがあった時に相談などのできる友達がありますか」において、あまりいない・いないは 13.2%、「お子さんのことで、相談できる先生がいますか。」はあまりいない・いないは 30.4% となっている。また「PTA活動に参加していますか」についてもやや低くなっていた。好意的な評価が多いことに感謝しながら、課題となる質問については全教職員で今後取り組んでいきたい。

【来年度に向け、改善が必要と考えられる内容】

① 学校教育目標・学校経営について

- ・職場の福利厚生の充実。

② 学校運営について

- ・職員間の連携・協働とコミュニケーションの充実。

③ 学習指導について

- ・ICTの活用を効果的に活用した授業改善の実施。

④ 生徒指導について

- ・生徒の実態に応じた、生き方教育（キャリア教育・進路指導）の充実。

⑤ 地域との連携について

・教育活動の中に地域人材や施設を活用した地域の教育力を生かす指導の充実。

⑥ 学校の特色について

・あいさつを進んで行う指導の継続。

⑦ 創甲斐教育について

・生徒の国語力（書く力）の向上。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	<p><自己評価より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全5項目中3項目で95%以上となった。 <p>本校のR6年度では、教育活動の評価が全体的に高いものの、一部の項目で若干の評価低下が見られた。特にPDCAサイクルを生かした教育活動や職場の福利厚生・健康管理においては、更なる改善が必要である。</p> <p>○学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動： R5: 97.6% → R6: 100.0%</p> <p>○教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえている。: R5: 95.1% → R6: 100.0%</p> <p>▽教育活動計画に基づき実態に即した教育実践を行っている。:R5: 97.6% → R6: 95.0%</p> <p>▽PDCAサイクルを生かした、教育活動を行っている。: R5: 95.1% → R6: 90.0%</p> <p>▽職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。: R5: 78.0% → R6: 67.5%</p>
改善策	<p>1. 教育活動計画に基づく実態に即した教育実践</p> <p>教員の定期的なフィードバックセッション^{※2}を設け、実態に即した指導方法や教材の改善点を共有する。また、生徒や保護者からのフィードバックを活用し、教育活動の質を向上させる。</p> <p>2. PDCAサイクルを生かした教育活動</p> <p>PDCAサイクルの徹底を図るため、各教育活動の計画、実施、評価、改善を定期的に点検し、改善点を迅速に反映する仕組みを強化する。</p> <p>3. 職場の福利厚生や健康管理</p> <p>教職員の福利厚生や健康管理を強化するため、定期的な健康チェックやストレスマネジメントプログラムを導入する。業務改善に関する情報を定期的に提供し、職員同士の実施確認を図る。また、職場環境の改善を図り、教職員が安心して働ける環境を整える。</p> <p>実施のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員や児童生徒、保護者からのフィードバックを積極的に収集し、改善のための具体的なアクションを明確にする。 ・教育活動や職場環境の改善状況を定期的に振り返り、必要に応じて新たな改善策を導入する。 ・教職員の健康管理に対する取り組みを強化し、働きやすい環境づくりを推進する。

II 学校運営について

達成状況	<p><自己評価より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全8項目の内、7項目が肯定的回答率90%以上となった。また、1項目がR5と変わらず85%であった。 <p>○個人情報保護・情報セキュリティの管理： R5:97.6% → R6:100.0% (向上)</p> <p>○職務上の報告、連絡、相談、確認： R5:90.2% → R6:100.0% (大幅向上)</p> <p>○校内研究（研修）への関わり： R5:90.0% → R6:92.5% (向上)</p>
------	---

達成状況	<p>▽危機管理マニュアルの理解: R 5 :97.6% → R 6 :92.5% (低下)</p> <p>▽教職員との協働体制: R 5 :97.6% → R 6 :97.5% (わずかに低下)</p> <p>▽校務支援システムの活用: R 5 :97.6% → R 6 :95.0% (低下)</p> <p>▽働き方改革の意識: R 5 :95.0% → R 6 :90.0% (低下)</p> <p>□職員間のコミュニケーション: R 5 : 85.0% → R 6 :85.0% (変わらず)</p> <p>学校運営において個人情報保護や職務上の報告・連絡・相談・確認, 校内研究への参加が特に高く評価されました。一方, 危機管理マニュアルの理解や働き方改革の意識, 校務支援システムの活用においては評価が低下しているため, これらの分野での改善が急務である。今後も教職員一丸となって, 課題に取り組み, 学校運営のさらなる向上を目指す必要がある。</p>
改善策	<p>1. 危機管理マニュアルの理解 定期的な訓練やシミュレーションを実施し, マニュアルの内容を具体的に理解するための実践的な研修を増やす。また, マニュアルの内容を定期的に見直し, 最新の情報を反映させる。</p> <p>2. 個人情報保護・情報セキュリティの管理 現在の取り組みを維持し, 情報管理を徹底する。特に多忙時のセキュリティ意識を徹底する。</p> <p>3. 教職員との協働体制 チームビルディング活動や小グループごとの定期的なミーティングを通じて, 教職員間のコミュニケーションを促進し, 協働体制を強化する。また, 成功プロジェクトを共有し, 学校全体に広めていく。</p> <p>4. 職務上の報告, 連絡, 相談, 確認 高評価を維持するために, 報告・連絡・相談の仕組みをさらに強化し, 情報共有の効率化を図る。具体的には, 校務支援システムを活用した迅速な情報共有を徹底する。</p> <p>5. 校内研究(研修)への関わり 研修に教職員が主体的に参加できるような魅力的なプログラムを企画する。また, 研修結果を共有し, 実践に生かすことができるインフラを整備する。</p> <p>6. 校務支援システムの活用 システムの改善と活用により職員の業務の効率を向上させる。システム利用研修を実施し, 活用の推進を行う。</p> <p>7. 働き方改革の意識 業務効率化を推進するため, 年間行事の見直しを行った。今後は業務プロセスの見直しやICTツールの導入, 行わなくてもよい業務の削減を更に推進する。また, ワークライフバランスを重視した働き方を推奨し, 定期的に効果を評価する取り組みを実施していく。</p> <p>8. 職員間のコミュニケーション ミドルリーダーによる小グループの会議や意見交換会を開催し, 職員間のコミュニケーションをより活性化させる。</p>

Ⅲ 学習指導について	
	<p>〈自己評価より〉</p> <p>・全7項目中, 肯定的回答率が80%以上となったのは6項目であった。</p> <p>○個に配慮した基礎, 基本の定着を図る授業: R 5 : 97.1% → R 6 :100.0% (向上)</p>

達成状況	<p>○指導と評価の一体化に努めた授業： R 5 : 94.1% → R 6 : 96.9% (向上)</p> <p>○協働的な学びを取り入れた授業： R 5 : 94.1% → R 6 : 100.0% (向上)</p> <p>○生徒が自分の考えを書いたり表現したりする授業： R 5 : 91.2% → R 6 : 96.9% (向上)</p> <p>▽児童生徒の学びの意欲を喚起する授業： R 5 : 100.0% → R 6 : 96.8% (低下)</p> <p>▽ICTを効果的に活用した授業： R 5 : 85.3% → R 6 : 71.9% (低下)</p> <p>▽宿題や家庭学習に対する指導： R 5 : 90.9% → R 6 : 84.4% (低下) 〈生徒アンケートより〉</p> <p>○学校は楽しいですか。 R 5 : 89.1% → R 6 : 91.5% (向上)</p> <p>○学校の授業は楽しいですか。 R 5 : 82.9% → R 6 : 85.4% (向上)</p> <p>○先生はよく勉強を教えてくださいますか。 R 5 : 97.6% → R 6 : 99.2% (向上)</p> <p>○数学の授業の内容はわかりますか。 R 5 : 73.0% → R 6 : 80.5% (向上)</p> <p>○あなたは、フリートークの時間が好きですか。 R 5 : 81.6% → R 6 : 83.8% (向上)</p> <p>▽国語の授業の内容はわかりますか。 R 5 : 95.7% → R 6 : 94.7% (減少)</p> <p>▽外国語の授業の内容はわかりますか。 R 5 : 81.8% → R 6 : 78.2% (減少)</p> <p>▽困ったことがあったら、相談できる先生がいますか。 R 5 : 69.1% → R 6 : 69.3% (変わらず)</p> <p>▽家庭学習の時間は目標時間 おおむね達成している R 5 : 67.8% → R 6 : 54.0% (減少) していない生徒 R 5 : 8.2% → R 6 : 10.8% (増加) 〈保護者アンケートより〉</p> <p>○学校は楽しいところだと思う。 R 5 : 82.6% → R 6 : 84.9% (向上)</p> <p>○学力向上に力を入れて取り組んでいると思う。 R 5 : 58.0% → R 6 : 58.4% (向上)</p> <p>○ICTを活用した授業に力を入れている。 R 5 : 61.6% → R 6 : 62.7% (向上)</p> <p>▽学校は、熱心に授業に取り組んでいると思う。 R 5 : 84.2% → R 6 : 81.6% (低下)</p> <p>▽授業の内容がわかっていると思う。 R 5 : 63.3% → R 6 : 61.8% (わずかに低下)</p> <p>▽宿題(課題)を忘れずにしていますか。 R 5 : 82.6% → R 6 : 80.8% (わずかに低下)</p> <p>▽家で自主学習をしていますか。 R 5 : 54.2% → R 6 : 53.5% (わずかに低下)</p> <p>□「スマホの使用時間」は 4時間以上:21.1% 4時間より少ない:14.1% 3時間より少ない:23.1% 2時間より少ない:26.0% 1時間より少ない:11.9% 持っていない:1.2%</p>
改善策	<p>1. 生徒の学びの意欲を喚起する授業 生徒の興味を引く教材やアクティブラーニングやフリートークを活用し、授業をより魅力的なものにし生徒の興味・関心を高める授業を実施していく。また、生徒からの自己評価を取り入れ、授業改善を図る。</p> <p>2. ICTを効果的に活用した授業 教師のICTスキル向上のための研修は本年度も実施した。今後は、より実践的な研修の機会を増やし活用方法と機会を教科ごと検討し、職員全員が達成目標をたて実践に取り組む。また、生徒が積極的にICTを活用できる環境整備を行う。</p> <p>3.宿題や家庭学習に対する指導 宿題の質と量を見直し、生徒の興味や学習進度に応じた課題を設定する。家庭学習の重要性を保護者に啓発し、家庭での学習環境を整える支援を行う。</p>

改善策	<p>4.教師の専門性向上 校内研究及び教科ごとのワークショップを定期的に行い、教師の専門性を高め情報交換促進を行う。特にICT活用やフリースクール・学びあいに焦点を当てた研修を継続する。</p> <p>5.生徒の意見を反映 授業ごとの自己評価を活用し、生徒のニーズや希望、達成状況に応じた授業内容の改善を行う。</p> <p>6.家庭との連携強化 保護者とのコミュニケーションを強化し、家庭での学習支援を促進する。保護者向けの説明会や情報提供を通じて、家庭学習の重要性を理解してもらい支援して行く。</p> <p>7.学習環境の整備 学校内の学習環境を学年・教科ごとに再検討し、生徒が集中して学習できる環境改善に取り組む。</p> <p>8.時間管理とスマホ使用の制限 生徒の時間管理スキルを向上させるための指導を定期的に行う。特にスマホ使用時間の適切な管理を奨励する。具体的な時間管理方法やルールを教えることで、学習時間を確保する。</p>
-----	---

IV 生徒指導について	
達成状況	<p><自己評価より> 6項目のうち5項目で100%であった。</p> <p>○民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくり： R 5 : 94.3% → R 6 : 100.0% (向上)</p> <p>○児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている： R 5 : 97.4% → R 6 : 100.0% (向上)</p> <p>○児童生徒の規範意識をはぐくむ指導： R 5 : 94.7% → R 6 : 100.0% (向上)</p> <p>○清掃や給食などの諸活動において時間通りに生徒のそばにいる： R 5 : 94.3% → R 6 : 100.0% (向上)</p> <p>▽キャリア教育（キャリアパスポートの活用・進路指導など）： R 5 : 90.9% → R 6 : 87.5% (低下)</p> <p>□いじめ、不登校等の早期発見・早期対応： R 5 : 100.0% → R 6 : 100.0% (変わらず)</p> <p>・いじめ、不登校等の早期発見・早期対応、支援の内容や課題は、生徒指導部会を中心に情報交換が詳細に実施されている。個別の対応が細かく実施されている。</p> <p>・教職員は、生徒理解のために生徒と積極的にコミュニケーションをとっている。（生活ノートや休み時間の会話など）また、規範意識を育む指導や生き方教育にも意欲的に取り組んでいる。</p> <p>・不登校の生徒や教室に入れない生徒に対して、自学教室登校やリモート授業を実施している。</p> <p><生徒アンケートより> 全体的に高い肯定評価を維持しているが、前年度を下回った評価が多いことに注意したい。</p> <p>○だれとでも挨拶をしていますか。 R 5 : 88.8% → R 6 : 90.2% (向上)</p> <p>▽いろいろなことを相談できる友達はいますか。 R 5 : 90.3% → R 6 : 86.2% (減少)</p> <p>▽人が困っているときは、進んで助けていますか。 R 5 : 92.9% → R 6 : 91.2% (減少)</p>

	<p>▽学校のきまりや約束を守っていますか。 R 5 : 98.7% → R 6 : 97.9% (わずかに減少)</p> <p>▽委員会活動にしっかり取り組んでいますか。 R 5 : 95.5% → R 6 : 93.7% (減少)</p> <p>▽清掃活動をしっかりしていますか。 R 5 : 98.0% → R 6 : 96.8% (わずかに減少)</p> <p>▽部活動へ積極的に参加していますか。 R 5 : 60.9% → R 6 : 59.6% (減少)</p> <p>▽あなたは、友人関係にストレスをかかえていませんか。 R 5 : 18.0% → R 6 : 25.3% (増加)</p> <p>・将来の夢や希望を持っていますか。 R 5 : 64.8% → R 6 : 64.6% (ほぼ変わらず) (保護者アンケートより)</p> <p>○学校は楽しいところだと思う。 R 5 : 82.6% → R 6 : 84.9% (向上)</p> <p>○家族で互いに挨拶をするようにしていますか。 R 5 : 92.3% → R 6 : 96.3% (向上)</p> <p>○お子さんに進んで挨拶をするように言っている。 R 5 : 84.4% → R 6 : 86.8% (向上)</p> <p>○学校は、子ども達に学校外でも挨拶をするように指導している。 R 5 : 68.8% → R 6 : 71.0% (向上)</p> <p>○お子さんは将来の夢や希望をもっていますか。 R 5 : 57.4% → R 6 : 60.7% (向上)</p> <p>▽お子さんのSNS等やネットによるトラブルや困ったことがありますか。 R 5 : 8.5% → R 6 : 9.6% (わずかに増加)</p> <p>△お子さんのことで、相談できる先生がいますか。 R 5 : 67.3% → R 6 : 63.4 (減少)</p> <p>▽学校は子ども達の間違った行動に対して指導している。 R 5 : 81.9% → R 6 : 81.0% (わずかに減少)</p>
改善策	<p>1. キャリア教育 (キャリアパスポートの活用・進路指導など) キャリア教育の質を向上させるため以下の取り組みを充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験: 地域の企業や団体と連携し、実際の職場体験を通じて生徒が将来の職業について具体的にイメージできる機会を提供します。 ・キャリアカウンセリング: 本校では3年の進路説明会以外に1年次・2年次にも進路説明会を実施している。また、学期ごとの三者懇談に加え生徒との二者懇談の機会を確保し、個別の進路相談を通じて生徒一人ひとりの目標設定や進路選択のサポートを継続します。 ・キャリアパスポートの活用: 生徒自身がキャリアパスポートを活用し、自分の成長や達成を記録することで、自信を持って進路選択に臨むことができるようにする。 <p>2. 友人関係のストレス軽減 友人関係にストレスを感じる生徒が増加しているため、以下の取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポート: 同年代の生徒同士でサポートし合うピアサポートプログラム^{※4}を導入し、生徒間のコミュニケーションを円滑にします。本年度新たな学びの公開研究で取り組んだフリートークの取り組みを継続し以下の能力を促進します。 <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒間での自然なコミュニケーションの促進。相互理解の浸透。 ② 助け合うことで自信を持ち、リーダーシップや自己効力感を育む。 ③ 互いに意見を出し合い、問題を解決する経験を通じて、協力して問題に取り組む能力の育成。 ④ 同じ境遇にいる友人からのサポートを受けることで、孤立感の減少、感情的な安定をもたらす。 <p>3. 生徒同士のつながり 学級集団づくりをさらに推進させていき、どの生徒にとっても居場所のある、自己肯定感や自己有用感が感じられる学校づくりを進めていきたい。</p>

改善策	<p>チームビルディング活動^{※3}: クラスや学年ごとのチームビルディング活動^{※3}を通じて、生徒同士の信頼関係を高めていく。部活動、合唱活動や生徒会活動、年輪祭体育部門、全校製作、委員会活動においてクラスや学年の枠を超えてコミュニケーションや協力、問題解決のスキルを向上させるアクティビティに子供たちを導き挑戦させていく。</p> <p>4.SNS等ネットによるトラブル防止</p> <p>SNSやネットのトラブルが増加しているため、以下の取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットリテラシー教育: SNSやインターネットの安全な利用方法を教えるネットリテラシー教育を強化していく。具体的には年度当初の情報教育集会、警察と連携したネットトラブル防止講演会、全教科を横断的に取り組む情報リテラシー教育により普段からマナーや最新の情報教育の利点と欠点について学ばせていく。 ・トラブルへの迅速対処: 週に一度の生徒指導対策会議を中心に、情報収集のための月一回の島っこ調査、学期末の生徒指導調査、二者懇談や三者懇談、i-check調査実施に加え、養護教諭、担任の日常の情報を迅速に共有し、アンテナを高くして生徒の状況把握に努め迅速に対応していく。
-----	---

V 地域との連携について	
達成状況	<p><自己評価より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全6項目中4項目が肯定的評価90%以上となっている。 <p>○人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導: R 5 : 71.4% → R 6 : 76.3% (向上)</p> <p>○たよりやホームページを通して保護者に広報: R 5 : 95.0% → R 6 : 97.5% (向上)</p> <p>○PTA活動に積極的に参加: R 5 : 92.3% → R 6 : 95.0% (向上)</p> <p>○地域・保護者と連携し、児童生徒の安全確保: R 5 : 92.7% → R 6 : 100.0% (向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設ける: R 5 : 92.3% → R 6 : 92.5% (ほぼ変わらず) <p>▽学校評価の結果が生かされている: R 5 : 92.5% → R 6 : 89.5% (低下)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校のPTA活動の一つの特色である「一人一活動」への協力では、「鍛練」や「夏休み中のパトロール」に多くの保護者の協力があった。また、合唱祭や年輪祭には延べ1000人以上の保護者や地域の方が参観していただいた。 ・本年度は保護者が学校の様子を直接参観できる機会として以下のものを実施した。(授業参観、合唱祭、年輪祭、教育講演会、奉仕作業3回) 保護者の入場制限は基本的になくし、多くの方々に参観して頂いた。 ・学校だよりや学年・学級通信の発行を行った。ホームページの更新量は増加している。さくらメールによる保護者への連絡や各種通信の送信も積極的に行い情報発信に努めた。 ・2学年で実施された地域の企業での職業体験学習は、教育委員会・地元企業、市商工会の支援と協力のもと実施することができた。地元企業の評価も好評であり、敷島中生の成長ぶりを地域に紹介する機会となった。 <p><生徒アンケートより></p> <p>▽家の人と学校での様子を話していますか。 R 5 : 85.7% → R 6 : 79.3% (減少)</p> <p>▽今住んでいる地域の行事に参加していますか。 R 5 : 43.5% → R 6 : 42.9% (わずかに減少)</p>

	<p>〈保護者アンケートより〉</p> <p>○学校・学年・学級だより，ホームページから教育活動の様子を知ることができる。 R 5 : 85.5% → R 6 : 88.1% (向上)</p> <p>○学校は，保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う。 R 5 : 72.2% → R 6 : 75.8% (向上)</p> <p>○授業参観や学校開放日などは，子どもの様子を知るよい機会になっている。 R 5 : 90.8% → R 6 : 93.3% (向上)</p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加していますか。 R 5 : 28.8% → R 6 : 30.6% (向上)</p> <p>○学校からの便りや連絡はさくら連絡網等で届いている。 R 5 : 97.9% → R 6 : 98.6% (向上)</p> <p>▽PTA活動に参加していますか。 R 5 : 69.1% → R 6 : 67.8% (わずかに減少)</p>
改善策	<p>1. 地域の人材や施設を活用し，地域の教育力を生かす指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の拡充：地域の多様な人材（専門家，職人，アーティストなど）を招き，授業や特別プログラムを工夫する。 ・施設利用の拡大：地元の図書館，博物館，公園などの施設を教育活動に積極的に活用し，生徒が地域の資源に触れる機会を増やす。 <p>2. 保護者や地域の声に耳を傾け，情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なアンケート：保護者や地域住民から定期的に意見を募るアンケートをさくら連絡網のアンケート機能を活用して実施し，ニーズや要望，意見・感想を把握する。 ・意見交換会の開催：学期ごとに学校運営協議会を開き，保護者や地域住民，教育の専門家と直接対話する機会を設ける。 <p>3. 学校評価の結果の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価結果のフィードバック：学校評価の結果を全教職員にフィードバックし，改善点の共有をする。 ・改善計画の策定：評価結果をもとに運営委員会を中心に職員会議や校内研究において改善計画を策定し，進捗状況を定期的に確認する。 <p>4. PTA活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の多様化：本年度は従来の「鍛練」や「パトロール」に加え，地域貢献活動として親子奉仕作業を実施した。1学年では地域のおやじの会と協力し餅つき大会を実施した。今後地域住民参加型イベントの形を検討していく。 ・参加促進：保護者に対して活動内容や意義を説明し，参加を促進することで学校の取り組みの理解を促進していく。 <p>5. 保護者が学校の様子を知る機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの継続実施：授業参観，合唱祭，教育講演会などのイベントを継続し，保護者が直接学校の様子を見られる機会を提供する。 ・情報発信の強化：学校だよりや学級通信，ホームページの更新を積極的に行い，保護者への情報発信を強化する。

VI 学校の特徴に関して	
	<p>〈自己評価より〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4項目中すべてが肯定的評価95%以上となった。 <p>○あなたは，生徒が朝読書や家庭学習に取り組むよう指導に努めている。</p>

	<p style="text-align: right;">R 5 : 94.6% → R 6 : 97.5% (向上)</p> <p>○あなたは、生徒理解に努め、生徒との信頼関係を築くよう努めている。</p> <p style="text-align: right;">R 5 : 97.6% → R 6 : 100.0% (向上)</p> <p>○あなたは、フリートーク等、生徒のコミュニケーション向上に努めている。</p> <p style="text-align: right;">R 5 : 97.4% → R 6 : 100.0% (向上)</p> <p>▽あなたの学校は、生徒が進んで挨拶をするよう取り組んでいる。</p> <p style="text-align: right;">R 5 : 97.6% → R 6 : 95.0% (わずかに減少)</p> <p>・リサイクル活動など、本校の伝統的な活動や朝の読書活動を大切にし、継続した取組が行われている。</p> <p>・生徒が進んであいさつをする活動は充実している。</p> <p>〈生徒アンケートより〉</p> <p>▽人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか。</p> <p style="text-align: right;">R 5 : 68.2% → R 6 : 65.2% (減少)</p> <p>○だれとでも挨拶をしていますか。 R 5 : 88.8% → R 6 : 90.2% (向上)</p> <p>○あなたは、フリートークの時間が好きですか。 R 5 : 81.6% → R 6 : 83.8% (向上)</p> <p>□困ったことがあったら、相談できる先生がいますか。</p> <p style="text-align: right;">R 5 : 69.1% → R 6 : 69.3% (ほぼ変わらず)</p> <p>□先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。</p> <p style="text-align: right;">R 5 : 95.0% → R 6 : 95.0% (変わらず)</p> <p>▽月曜日から金曜日までは、家や図書館などで、一日あたりどのくらいの時間、読書をしていますか。</p> <p style="text-align: center;">R 5 : 30分以下 30.1% 0時間 30.3% → R 6 : 30分以下 32.2% (増加) 0時間 31% (わずかに増加)</p> <p>〈保護者アンケートより〉</p> <p>○ご家庭では、家族で互いに挨拶をするようにしていますか。</p> <p style="text-align: right;">R 5 : 92.3% → R 6 : 96.3% (向上)</p> <p>○ご家庭では、お子さんに進んで挨拶をするように言っていますか。</p> <p style="text-align: right;">R 5 : 84.4% → R 6 : 86.8% (向上)</p> <p>○学校は、子ども達に学校外でも挨拶をするように指導していると思う。</p> <p style="text-align: right;">R 5 : 68.8% → R 6 : 71.0% (向上)</p> <p>△お子さんのことで、相談できる先生がいますか。 R 5 : 67.3% → R 6 : 63.4% (減少)</p>
改善策	<p>1. 生徒が進んで挨拶をする取り組み</p> <p>現在、生徒が進んで挨拶をする文化を強化するためのプログラムは生徒会主導で実施している。具体的には、朝の登校時の挨拶習慣活動において上級生が率先して挨拶する姿勢を下級生に示している。また、保護司による月1回の挨拶運動や毎日の下校時に全職員が挨拶をしながらの見守り活動を行っておりこれらの取り組みを継続していく。</p> <p>2. 朝読書や家庭学習に取り組む指導</p> <p>朝読書や家庭学習をさらに促進するための取り組みを継続していく。現在毎朝の読書時間を全校で設定し、教職員も一緒に参加することで一体感を高めている。また、家庭学習の内容を学級通信や学年だよりで紹介し、保護者にもその重要性を理解してもらう取り組みを継続していく。</p> <p>N I Eの取り組みを継続し、I C Tを活用してデジタル版の新聞の購読などこれからも積極的に取り組む。</p>

3. 生徒理解と信頼関係の構築に関する取り組み

定期的な面談やアンケートを通じて生徒の意見を収集し、個別に対応していく。また、生徒との信頼関係を築くためのチームビルディング活動^{※3}やピアサポートプログラム^{※4}を導入し、教職員と生徒と一緒に活動する機会を増やしていく。

4. フリートーク等，コミュニケーション向上の取り組み

フリートークやコミュニケーション向上の取り組みを更に強化する。具体的には、授業の一環としてディベートやディスカッションの時間を設け、生徒同士が意見を交換する場を提供していく。本年度から生徒会選挙にはディスカッションの時間を設ける取り組みが実施された。

VII 創甲斐教育について

<自己評価より>

・ 3項目中2項目が肯定評価90%以上となった。

○生徒の体力向上に計画的に取り組んでいる。 R5:95.1% → R6:97.4% (向上)

▽生徒の国語力(書く力)の向上に計画的に取り組んでいる。

R5:92.5% → R6:89.5% (わずかに減少)

▽生徒の自己表現力(話す力)の向上に計画的に取り組んでいる。

R5:95.0% → R6:92.3% (わずかに減少)

・ 「確かな学力の質問」まとめ

○学校の授業は楽しいですか。 R5:82.9% → R6:85.4% (向上)

○先生はよく勉強を教えてくださいますか。 R5:97.6% → R6:99.2% (向上)

○数学の授業の内容はわかりますか。 R5:79.3% → R6:80.5% (向上)

▽国語の授業の内容はわかりますか。 R5:95.7% → R6:94.7% (減少)

▽外国語の授業の内容はわかりますか。 R5:81.8% → R6:78.2% (減少)

▽人前でしっかりと自分の意見を言うことができますか。

R5:68.2% → R6:65.2% (減少)

□学校以外の勉強(1年70分 2年80分 3年90分)

R5いつもしている → 1年70.3% 2年70.5% 3年62.2%

R6いつもしている → 1年50.7% 2年41.1% 3年68.0%

・ 「豊かな心の育成」質問まとめ(生徒)

▽学校のきまりや約束ごとを守っていますか。

R5:98.7% → R6:97.9% (わずかに減少)

▽人が困っているときは、進んで助けていますか。

R5:92.9% → R6:91.2% (減少)

▽委員会活動にしっかり取り組んでいますか。 R5:95.5% → R6:93.7% (減少)

▽清掃活動をしっかりしていますか。 R5:98.0% → R6:96.8% (わずかに減少)

▽不登校児童生徒の割合 R5:41人 → R6:37人 (病欠除く 15日以上)

▽いじめ解消率

R5(12月時点):30.8% (認知26件中8件取り組み中)

→R6(12月時点):66.6% (18件中6件取り組み中)

達成状況

	<ul style="list-style-type: none"> ・「健やかな身体」質問まとめ（生徒） ○学校は楽しいですか。 R 5 : 89.1% → R 6 : 91.5%（向上） ○学校の授業は楽しいですか。 R 5 : 82.9% → R 6 : 85.4%（向上） ○朝ごはんを食べて登校していますか。 R 5 : 90.4% → R 6 : 90.8%（わずかに向上） ▽あなたは、友人関係にストレスをかかえていませんか。（悩みがある。） R 5 : 18.0% → R 6 : 25.3%（増加） ・「ふるさとに誇りや愛情を持ち、活躍できる人材の育成」の質問まとめ（生徒） ・「家庭・地域・学校による教育の推進」の質問まとめ（教師） ○あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。 R 5 : 71.4% → R 6 : 76.3%（教師） ▽今住んでいる地域の行事に参加していますか。 R 5 : 43.5% → R 6 : 42.9%（わずかに減少）（生徒）
改善策	<p>1. 生徒の国語力（書く力）の向上</p> <p>個別指導の強化: 書く力の向上のために、基礎練習の時間を確保し、個別指導を強化するなかで生徒それぞれの弱点に合わせたサポートを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライティングワークショップ: 協働的な学びの実践として教科横断的にライティングワークショップを実施し、生徒が実際に書く練習を積む機会を増やしていく。 ・書いた作品の共有: 生徒が書いた作品を学校内で展示したり、ホームページで公開したりすることで、生徒のモチベーションを高めていく。 <p>2. 生徒の自己表現力（話す力）の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディベートやディスカッションの実施: 授業内でディベートやディスカッションを取り入れ、生徒が意見を述べる機会を増やしていく。 ・プレゼンテーションスキルの指導: ICT 端末を活用したプレゼンテーションを教科横断的に実施し生徒が自らの意見を根拠をもって話すことができる学習の機会を増やしていく。 ・生徒同士のフィードバック: 発表後に生徒同士でフィードバックを行い、互いに学ぶ合う時間の確保に取り組む。 <p>3. 学校以外の勉強の促進</p> <p>自主学習の支援: 自主学習用の教材やリソースを提供し、自宅での学習を支援する。</p> <p>保護者への情報提供: 保護者に対して、家庭での学習の重要性や方法についての情報提供を行い、家庭でのサポートを促進していく。</p> <p>4. 豊かな心の育成</p> <p>道徳教育の強化: 道徳の授業の実施率を増やし、思いやりや協力の重要性を教える。</p> <p>ボランティア活動の推奨: 学年行事として2年次の職場体験学習、1年次のボランティア活動を継続して取り組む。伝統のリサイクル活動への取り組みを推奨し、生徒が積極的に参加する機会を設けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルスサポート: ストレスや悩みを抱える生徒へのカウンセリングやサポートを強化する。 <p>5. 健やかな身体の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上プログラムの継続: 体力向上に成功している鍛錬や部活動を継続し、さらに充実させていく。 ・健康教育の実施: 健康な生活習慣についての教育を栄養教諭、養護教諭、家庭科担当

教師， 体育担当教師が連携し， 生徒が自分自身の健康に責任を持つよう促す。

6. 地域との連携の強化

- ・ 地域行事への参加推進： 地域行事の情報を学校内で周知し， 生徒や保護者が参加しやすい環境を整える。
- ・ 地域資源の活用： 地域の人材や施設を活用したプログラムを増やし連携を強化する。

3 まとめ

< 成果 >

本年度は， 教職員の自己評価では特に【学校教育目標・学校経営】 【学校運営】 【学習指導】 【生徒指導】 【地域との連携】 【学校の特色】 の 14 項目で肯定評価が 100%となり， 昨年度の 2 項目から大きな進展が見られた。 【生徒指導】 では， 「民主的で規律ある集団づくり」 「生徒理解のためのコミュニケーション」 「規範意識の醸成」 「いじめや不登校等の早期発見・早期対応」 「率先垂範」 の 5 項目が 100%の評価となっている。

また， 【学習指導】 においても， 「個に配慮した基礎基本の定着を図る授業」 や「協働的な学びを取り入れた授業」 の実践が高く評価され， 県教委指定の「新たな学びの姿に向けた授業改善推進事業」 の推進校として研究の取組が生かされたと考えている。

生徒アンケートにおいても， 甲斐市中学校 5 校の平均を 27 項目中 20 項目が上回っており， 特に教師と生徒のつながりの質問でも非常に高い肯定評価を得ている。 また， 本校が大切に取り組んできた「あいさつ」 「コミュニケーション力向上」 「学級づくり」 の成果が反映されており， 生徒と職員が力をあわせて取り組んできた成果だと感じている。

保護者のアンケートにおいても， 甲斐市中学校 5 校の平均では 26 項目中 24 項目で上回り， 昨年度よりも 13 項目で上昇しており， これまでの本校の取組を評価していただいたと感じている。

< 課題 >

職員の自己評価では， 甲斐市中学校 5 校との比較において， 8 項目で評価が下回っていることが分かった。 特に【学校教育目標・学校経営】 【学校運営】 【学習指導】 【生徒指導】 の評価が低下しており， 今後の取り組み方法の見直しが求められる。

また， 【地域との連携】 の評価も上がったが， 依然として甲斐市の平均には届いておらず， さらなる改善が必要である。 更に， 職場の福利厚生や健康管理への配慮が低評価となっている点も重要な課題として捉えている。 これらの結果を踏まえ， 学校評価の成果と課題をしっかりと精査し， 来年度の改善に活かし， 学校教育目標の達成に向けた取り組みを強化していきたい。

生徒アンケートではここ数年グランドデザインにも掲げ力を入れている「将来の夢や希望をもっているか」 「困ったときに相談できる先生がいるか」 については， 目標の 80%にまだまだ届いていないという結果が出ている。 集団づくりや生徒同士のつながり， 信頼関係を大切にしながらどの生徒にとっても居場所のある， 自己肯定感や自己有用感が感じられる学校づくりにより一層努力を続けていきたい。

保護者アンケートでは， 本校の教育活動に対して良い評価を多く頂いたすべての項目をもう一度精査し， 来年度も引き続き， 教職員全体が一丸となって教育活動に取り組み， より良い環境づくりを目指していきたい。

用語解説

※1 率先垂範

人々の先頭に立ち、自らの行いをもって模範を示すこと。具体的には本校職員が清掃や給食などの諸活動で模範を示すこと。

※2 フィードバックセッション

個人やチームのパフォーマンスに対して建設的な意見や提案を共有し、改善点や強みを認識して成長を促すための集まりやミーティングのことです。

※3 チームビルディング活動

職場や学校などの集団で、メンバー同士の連携や協力を促進し、チームとしてのパフォーマンスを向上させるための活動を指します。

※4 ピアサポートプログラム

同じ組織やグループ内で同僚や仲間同士が互いにサポートし合うシステム。このプログラムの目的は、メンバーが困難や課題に直面した際に、同じ立場の仲間からアドバイスや支援を受けることで、精神的・実務的なサポートを強化することです。